

夫婦で入所している高齢者の支援
～利用者の望む施設生活の計画を通して～

18CC15 高林 奈月

I. はじめに

介護実習Ⅲでは、同じユニット内に夫も一緒に生活されているA様を、受け持たせていただいた。夫婦での仲が良く、本人の希望は夫婦で楽しく暮らしたいという、情報収集した本人のニーズから、夫の誕生日を祝うことで夫婦の思い出を祝っていただこうと計画を立てた。そこで、職員も尊重しているA様の夫婦での生活の重要性を学んだため、報告する。

II. 実習先種別・実習期間

介護老人福祉施設

2019年6月24日～7月23日（うち23日間）

III. 事例紹介

A様 80歳代 女性

1. 家族構成及び生活歴

23歳の時にお見合いで夫のB様と結婚する。結婚してからは専業主婦として家事を行い、子供2人を生み、育てた。

2. 入所に到った理由

2018年に自宅にて転倒し、脳梗塞の再発があり、左片麻痺となる。起立時ふらつき、左上肢痛にてADL拡大には時間を要した。高齢の2人暮らしのため自宅介護困難となり施設入所を希望した。

3. 健康状態

身体障害として脳梗塞後左片麻痺、構音障害がある。

4. 日常生活の状況

- ・日常生活動作はほぼ一部介助
- ・構音障害・呂律不全があるが、性格は穏やかで他者との関わりは好きな様子

5. 性格

穏やかであり、話しかけられると多く発言され、他者との関わりは好き。

6. 1日の過ごし方

ラジオ体操や口腔体操、レクリエーションには参加している。決まったテレビを夫婦で見る習慣がある。自分から余暇にフロアの散歩に行かれることがある。何もない時は食堂で何もせず過ごされていることが多い。

IV. 介護の実際

1. 課題の発見と分析

施設内の行事に参加しているが、ほとんど食堂で何もせず過ごしていることが多い。

今まで祝っていたB様の誕生日を、プレゼントを作り、祝う計画を実施した。

2. 介護上の課題

施設で充実して過ごすために、イベントを通して夫婦での楽しい思い出を作る必要がある

3. 介護目標

長期目標：健康を維持し、安全で充実した生活を送ることができる

短期目標：B様の誕生日を祝い、夫婦での楽しい思い出を作ることができる

V. 実施及び結果

7月6日に、誕生日のぬりえを実施した。実施後に「いつできるかね」と完成を楽しみにされている発言をされた。7月12日に、ぬりえの中心に『強情を張らずに皆様に可愛がられて百才まで生き抜いてください』とメッセージを考えて書いてくださった。7月13日に、B様に完成したプレゼントを渡しに行った。B様は中心に書いてあるメッセージを見て「強情を張らないと生きていけないんだよなあ」ととても喜ばれた。A様は「こんなのね、渡すの初めてね」と夫婦で笑われた。今回の計画で夫婦の思い出を作ることができ、今回の介護計画の短期目標、長期目標を達成できたのではないかと思う。

VI. 考察

神原は¹⁾「生活実現を達成する過程で何よりも大きな原動力となるのは、愛を育てあいながら、ともに生きる他者の存在であり、愛することがみずからの生命力を生み出し、相手の生命力に活力を与え、そしてともに生きることの充実感を高める」と述べている。今回の計画を通してB様は「まだまだ長生きしないのだな」と話されていた。この発言から、今回の計画でB様に生きることへの活力を与えられたのではないか。夫婦の関わりは、お互いの生きがいであると考えた。保坂は²⁾「若年夫婦を支えるもの、それは(中略)熟年夫婦自らの心と努力とで、時間をかけて、美しくも集積されていくものなのである。」と述べられているように、実施した計画は活力を与えることはできたが、日常生活に定着したテレビを2人で見る時間の方が、A様夫婦にとって最も安らぎの時間であり、神原の述べた効果があるのではないかと考えられる。テレビの時間には、職員は居室に立ち入らないように配慮をしていることも、この理由があったのではないかと考えた。

VII. おわりに

今回の実習では、夫婦で同じユニットに本人たちの希望で施設に入所された利用者を受け持ち利用者とした。今回の計画の実施はA様夫婦にとって精神的安らぎの場になったのではないかと考えた。しかし、ケーススタディを通して、日常生活の当たり前の2人の時間がA様夫婦にとって、最も生活で重要であると考えた。

参考・引用文献

1) 神原文子(1991)「現代家族問題シリーズ1 現代の結婚と夫婦関係」P.83

東京大学出版会

2) 保坂健治(2006)「夫婦・カップル関係 「新しい家族のかたち」を考える」p.114